



呉基地を平和委が調査

大軍拡の実態目の当たり

日本平和委員会中国ブロックと広島県平和委員会の学習交流会は2日目の24日、広島県吳市の海上自衛隊呉基地調査を行いました。戦前の海軍工廠（こうしょう）で戦艦大和を建造したドック停泊した潜水艦を見ながら「アレイからすこじま」で説明を聞く参加者

II 24日、広島県吳市

の上屋が一望できる
「歴史の見える丘」や、
潜水艦や護衛艦が停泊する公園「アレイからすこじま」などをマイクロバスで巡りました。
広島県平和委員会の本藤修代表理事が各所で詳しく由来や現状を説明しました。歴史の見える丘では、海自呉地方總監部に隣接し各地の自衛隊と衛星通信で結ぶバラボラアンテナを確認。「有事の際に攻撃目標となるような施設が駅やシヨツピングセンターのすぐ近くにあって怖い」との声が聞かれました。

参加した広島県の秋山義成（みなり）さん（29）は「実際に基地の実態を目の当たりにし、内容が濃い解説が聞けてよかったです。学んだことを持ち帰って青年たちと学習会ができる」と話しました。

あいにくの雨でしたが、アレイからすこじまでは呉湾に浮かぶ弾薬庫、大鹿女島（おおむめじま）が遠望できました。

きました。

防衛省が「多機能複合防衛拠点」を整備するととして一括購入を狙う日本製鉄瀬戸内製鉄所吳地区跡地の広大な敷地やそびえ立つ高塔を車内から見学しました。本藤さんは「跡地を更地にするのに10年かかるといわれたが、防衛省は設備のゾーンングなどと同時並行で進めている」と話す。岸田政権の大軍拡路線に警鐘を鳴らしました。